

聖書箇所 ヨハネによる福音書17章4節～6節、13節～20節

- 4：あなたがわたしに行わせるためにお与えになったわざを、わたしは成し遂げて、地上であなたの栄光をあらわしました。
- 5：今は、父よ、みそばで、わたしを栄光で輝かせてください。世界が存在する前に、ご一緒に居て持っていましたあの栄光で輝かせてください。
- 6：わたしは、あなたが世から取り出してわたしに下さった人々に、あなたの御名を明らかにしました。彼らはあなたのものであって、あなたは彼らをわたしに下さいました。彼らはあなたのみことばを守りました。
- 13：わたしは今みもとにまいります。わたしは彼らの中でわたしの喜びが全うされるために、世にあってこれらのことを話しているのです。
- 14：わたしは彼らにあなたのみことばを与えました。しかし世は彼らを憎みました。わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものでないからです。
- 15：彼らをこの世から取り去って下さるようというのではなく、悪い者から守って下さるようお願いします。
- 16：わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではありません。
- 17：真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは真理です。
- 18：あなたがわたしを世に遣わされたように、わたしも彼らを世に遣わしました。
- 19：わたしは、彼らのために、わたし自身を聖め別ちます。彼ら自身も真理によって聖め別たれるためです。
- 20：わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによって私を信じる人々のためにもお願いします。

メッセージ骨子：

<序論> フランスのタジネス教会にあるレンブラント作「十字架上のキリスト」は、私にとって長い間特別な絵でした。**26**年前初めて見た時、そのキリストの目に釘づけになり、それ以来忘れることができなかつたからです。「いったい何を見ておられるのか？」実はその疑問に対する「答え」がヨハネに福音書にあることについて最近気づきました。

<答え、その1> 『キリストはご自分の受難の完了と、さらなる栄光を見ておられた』

主は想像を絶する苦しみの中に居られましたが、それ以上に、十字架上にありながらも受難の完了を確信し(17:4)、そこから始まるさらなる栄光を喜ぶ(17:5)ことに心の焦点がありました。ヨハネ 17:4-5、この**2**つのみことばは、「あなたがたは世にあっては艱難があります。しかし、わたしはすでに世に勝ったのです」(ヨハネ 16:33)に等しい、苦痛と死に対する勝利宣言でもありました。

<答え、その2> 『キリストは聖別された弟子たちの歩みを見ておられた』

「彼らはあなたのみことばを守りました」(17:6)。これはこれから一旦挫折する弟子たちが再び立ち上がる姿を予見したことばでした。その上で「彼らを真理によって聖別してください」(17:17)と父なる神に祈られましたが、この祈りを通して主は弟子達に、決してこの世を避けることなく、逆にこの世に浸かりながらも使命を見失わず、堂々と世と渡り合う生き方を願われたのです(17:15)。

<答え、その3> 『キリストは**2000**年後の我々が、真理を捕えて歩む姿を見ておられた』

「あなたがわたしを世に遣わされたように、わたしも彼らを世に遣わしました」(17:18)とあるように、私たちはすでに主に遣わされた者として、今ここに居ます。それは11弟子達のみならず、『彼らのことばによって信じる人たち』つまり、それ以来今日に至る、全クリスチャンを対象とした言葉でした(17:20)。十字架上の主は、あの苦しみの中で、今日生きる我々をも見て下さっていたのです。

<まとめ> 主は今も天に在って私たちを見守り、とりなして下さっています。我々は聖書のみことばを生活の中心に据える時、この世のあらゆるものと理想的な距離で接することができるようになります。真理なるイエスキリストから目を離さないこと、これこそが「世をとらえながらも世にとらわれない」条件、リアリティーな勝者となるための秘訣です。

『そしてあなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします』(ヨハネ 8:32)

以上